

人間ドック健診施設機能評価 Ver.4 総合評価

施設名： 医療法人 広島健康会 アルパーク検診クリニック

受審施設の概要

医療法人広島健康会アルパーク検診クリニックは、広島市にあり、1990年に設立され、健診、人間ドックを開始した。駅から徒歩3分の商業施設の中にあり、公共交通機関に加えて駐車場も整備され、交通アクセスは良好である。

年間の受診者数は、一日ドック約12,000人、二日ドック約150人、その他の健診が約8,300人、検診車による巡回検診も約60人実施している。

本機能評価は2005年に初回の認定を受け、今回が3回目の更新審査である。

第1領域 理念達成に向けた組織運営

理念と基本方針は明文化され、施設内掲示及びホームページに掲載されている。また、毎年度末に全部署で内容の見直しが行われ、職員には各自の名札内に常時携帯する事で周知されている。

個人情報保護規定が明文化され、院内掲示やホームページで周知されており、必要に応じて情報管理委員会において見直されている。

就業規則等各種規程は必要時に見直され、改定されている。職業倫理については就業規則にて周知されており、研修・出張等の規定も定められている。

中期経営計画・年度事業計画・予算書等は理事ミーティングにおいて検討され、管理者会議に報告、各部のミーティングで周知されている。年度事業報告についても四半期毎に管理者会議で報告され、各部のミーティングで周知されている。

実態に即した組織図が作成され、定期的に更新されている。医師の体制については、ドック専任の医師が人間ドック認定医及び人間ドック健診専門医の資格を取得している。医師以外の医療職、事務職員も受診者数に対して適切である。

教育体制については、医師、医療職、事務職に対して年間計画が作成され、記録・周知・伝達されている。人間ドックアドバイザーや検診マンモグラフィ撮影認定診療放射線技師、胃がん検診専門技師、超音波検査士など、医師以外のスタッフの専門資格の取得も積極的である。研修不参加者に対しては、各部署での伝達講習により全員に周知されている。

医療安全管理体制については、リスクマネジメント委員会が設置され、マニュアルも整備されている。医療安全・感染予防・接遇・情報処理等の教育計画が作成されている。各部署から報告されたインシデントの事例検討が月に1回開催され、記録・周知・是正措置の検討・効果判定も行われ、安全衛生管理や感染管理については適切である。

情報の管理体制は、情報システム管理マニュアルが作成され、トラブル発生の対応マニュアルも整備されている。サーバー室への入退室記録や健診システムへのアクセス制限については、個別ID、パスワードにより管理され、手順書も作成されている。また、IS09001の外部認定を取得していることは評価できる。

高齢者や障害者等、配慮が必要な受診者に対しては、受診前日に関係スタッフが受診者情報を共有し、受診当日に対応するしくみがある。9階・10階に分かれる健診フロアはバリアフリーではないが、ビルのエレベーターを使用できるようになっている。

外国人受診者については、通訳同伴での受診は受け入れているが、手順や対応などは定められていないため、今後の整備を期待する。入口に英語及び中国語表記の案内と手話のできるスタッフ1名が在席している。

第2領域 受診者中心の良質な健診の実践

予約・受付業務は、業務に即したマニュアルが作成され運用されている。収受業務、会計処理は担当者の捺印により記録され、日報が作成されている。未収金・返金などの管理も手順書に従い記録されているが、管理者会議での実績報告はされていないため、改善が望まれる。

人間ドック学会が提示する基本検査項目は全て実施されている。

受診環境は、商業施設内の限られたスペースであるが、配置等を工夫され、快適に保たれている。健診誘導システムを導入し、待ち時間短縮を図っている。検査室や面談室はほぼ個室化されているが、身体計測、呼吸機能、視力、眼底の検査は同室で行われているので、プライバシー配慮にむけた工夫を期待したい。

受診に関する事前の情報提供は、ホームページや事前に送付される書類によって、受診者へ十分に行われている。ホームページにはQ&Aが掲載され、問い合わせへの対応マニュアルもまとめられている。検査の安全性の確保のため、受診当日は、保健師・看護師による医療面接が最初に行われ、体調を含めた多くの情報が収集されており、得られた情報はシステム内で共有されている。内視鏡検査は同意書が取られ、今回の受審を機にリスクの説明も記載された。急変時のマニュアルは整備され、救急カートも配置されている。定期的な訓練も行われ、継続的な取り組みを期待する。

精度管理体制は適切で、検査毎に責任者を置き、業務マニュアルに基づいて管理が行われている。外部精度管理サーベイへも参加し良好な成績を得ている。検査結果の判定は、人間ドック学会の判定区分に基づき行われている。また、画像の判定については、二重読影、比較読影がなされ、専門医が必ず関与している。精度管理委員会にて定期的に検討され、症例検討会等も開催されている。

医師による結果説明は、当日にほぼ100%の受診者に対して実施されている。画像の説明も含めた全ての項目について説明が行われており、評価できる。

保健指導は、保健師、管理栄養士により行われ、実施率は13%である。生活・栄養・運動・禁煙・減酒などの各種指導がなされ、実施記録も充実している。指導結果を次年度以降に活用出来る体制があるので、より多くの受診者に保健指導ができる工夫を期待したい。また、手順も含め、より充実した指導マニュアルや教育プログラムの作成、活用をされるとなるとよい。

第3領域 継続的な質改善の取り組み

受診者の要望を把握する体制としては、ご意見箱があり、また年3回1週間、全受診者にアンケートを実施している。集計や検討も積極的に行われ、受診者の意見・要望に対する改善活動に結びついている。

フォローアップについては、マニュアルが整備され、充実した形でしくみが構築されている。要精検率は、すべての項目で5%未満、精検受診率は平均79.4%と良好である。また、要精検・要治療の指示者には1ヵ月後に受診の有無を確認し、未受診者には受診勧奨を行っており評価できる。近隣医療機関との連携は十分構築されている。追跡検査のフォローアップについても、5～6ヵ月後に受診の有無を確認し、未受診者には受診勧奨している。リピーターへの受診確認の仕組みも整備されるとより良い。

健診結果の分析は継続的に行われている。各種学会への調査協力をはじめ、日本人間ドック学会学術大会では、毎年発表が継続されている。

受診者に向けた有用な情報提供としては、施設内でのリーフレットやホームページで「年度毎のがん発見数」や「健康だより」などの健康情報が提供されている。しかし、健診データの分析に基づく情報提供はされていないため、今後の課題である。

健康経営にむけた取り組みとしては、事業所へのアンケートの実施により意見・要望の把握を行っており、TQM委員会でも検討している。内容により管理者会議、各部署で対応を検討されているが、年報等は作成されていない。今後は、年報の作成やセミナーの開催等、契約団体への情報提供に活用されたい。

業務改善の体制としては、各部署では年1回、個人では年2回（上・下半期）の目標設定を行い、検討・改善を行っている。改善の検討・内容は記録され、定期的に力量チェックも行われている。

機能評価の前の指摘事項であるフォローアップ体制については改善がなされ評価できるが、保健指導の実施体制については更なる取り組みが必要と思われる。

総括

受診者数の比較的多い健診施設で、受付から医師面談までの効率化により、医師面談が100%近い実績を上げていることは、衆目に値する。それに加え、精度の高い検査、適切な情報の管理・運用、事後管理の徹底がなされ、評価に値する。

各委員会等の構成が自施設の改善を目的として機能的に構築されており、施設改善を目的として機能評価受審に積極的に取り組まれている。

総合的見地から、人間ドック健診施設機能評価の認定（更新）に値すると判断する。

審査日 2020年1月9日

認定承認日 2020年1月10日